

露地栽培に適した切り花用宿根草類

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

鳥取県内の遊休農地は近年急増しており、これを有効活用する方策として省力的な花き類の導入が考えられる。そこで、複合経営における補完品目の一つとして、露地栽培向けの宿根性花き類について栽培特性を調査し、市場ニーズに対応した新品目の栽培法を検討したので紹介する。

(2) 情報・成果の要約

- 1) 種子繁殖性の宿根草類 31 種を栽培した。このうち切り花品質が劣るもの、次年度生存株率が著しく低いものなどを淘汰した結果、エキノプス、ペロニカ等の 9 種を選抜した。
- 2) この 9 種について、開花期や切り花品質の経年調査、定植間隔の比較検討などを行い、栽培管理スケジュールを確立した。
- 3) このうち特に有望な品目としてエキノプス、エリンジウムの 2 種を選定した。両種とも盆・彼岸などの需要期出荷には適さないものの、個性的な草姿（花姿）で、市場評価（聞き取り調査）もよく、切り花品目として有望と考えられる。

2 試験成績の概要

- (1) 種子の入手が容易な宿根草類を 2009 年～2011 年に 31 種播種し、開花した 27 種について開花特性（開花期、切り花品質）を調査した。
- (2) 各種の育苗は 25 穴連結ポットおよび 200 穴育苗トレイを利用し、品目に合わせ 1～2 か月育苗した。育苗中は適宜液肥を施用した。定植は北栄町の園芸試験場花き圃場黒ボク土壤に、防草シートを被覆（雑草対策のため）した幅 1 m の畝を作り、各品目に合わせた植栽間隔（株間 20～40cm、条間 20～40cm）に穴を開けて定植した。灌水チューブ（スミサンスイ R-露地ワイド）を使用し、適宜灌水を行った。薬剤による防除は年間 3 回以内に留め、できる限り省力化に努めた。
- (3) 以上の条件で栽培し、生育特性、切り花品質、病虫害の被害状況等を二年にわたり調査した結果、エキノプス、ペロニカなどの 9 種を予備選抜した。これら 9 種についてはさらに三年目も調査と選抜を行い、このうち、草姿が個性的で開花期にかかわらず一定の需要が見込める種として、エキノプス・リトロ *Echinops ritro* とエリンジウム・プラナム *Eryngium planum* を選定した。
- (4) 予備選抜した 9 種については、季咲き作型の栽培管理スケジュールと特性および栽培上の留意点を表 1 にまとめた。
- (5) 最終的に選抜したエキノプス・リトロは、アザミのように刺のある大型の葉姿に、青色の頭状花序をつける個性的な花姿をしている（図 1）。北栄町での開花期は 7 月中旬だった。
- (6) エリンジウム・プラナムは、楕円形をした小さめの頭状花序を多数着生し、独特な花姿をしているため、エキノプス同様に市場需要が見込める（図 2）。北栄町での開花は 6 月中下旬となる。



図1 エキノプス・リトロ

図2 エリンジウム・プラナム

表1 各品目の季咲き作型の管理スケジュールと特性および栽培上の留意点

品目	月												特性および栽培上の留意点			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
エキノプス・リトロ (キク科)	一年目				● 播種	● 育苗	○ 定植							<ul style="list-style-type: none"> ・夏期の高温多湿にやや弱いため、通風良好で排水の良い圃場を選択する。 ・切り花を極端に深切りすると側芽が発生できずに枯れてしまうことがあるので、地際から5~10cm程度残して採花する。 		
	二年目												■ 収穫			
エリンジウム・プラナム (セリ科)	一年目				● 播種	● 育苗	○ 定植							<ul style="list-style-type: none"> ・夏期の高温多湿にやや弱いため、通風良好で排水の良い圃場を選択する。 ・分枝が多いため、密植すると小花房が枯死し品質低下の恐れがあることから、十分な間隔(30cm以上)をあけて植え付ける。 ・花序を囲む総苞(そうほう)には刺があるので注意が必要である。 		
	二年目												■ 収穫			
おみなえし‘名古屋’ (オミナエシ科)	一年目				● 播種	● 育苗	○ 定植							<ul style="list-style-type: none"> ・極めて強健だが、実生系の本系統は早生であること、花房密度が低くボリュームにかけるといった欠点がある。 ・摘芯しても需要期である盆よりも早く開花し、ボリュームも劣る。 		
	二年目												■ 収穫			
ユーパトリウム・マクラツム (キク科)	一年目				● 播種	● 育苗	○ 定植							<ul style="list-style-type: none"> ・秋の七草・フジバカマの仲間、極めて強健。 ・楚々とした趣があるが、切り花品目としては用途が限られ期待薄。 ・容易に種ができ、雑草化する。 		
	二年目												■ 収穫			
ロベリア・スペシオサ ‘ファンブル’ (キキョウ科)	一年目				● 播種	● 育苗	○ 定植							<ul style="list-style-type: none"> ・春播きで当年開花するがボリュームは劣る。翌年からは開花期が1か月程度早くなる。 ・株が出来すぎると花穂が帯化あるいは中途分枝することがあり、商品価値がなくなる。 		
	二年目												■ 収穫			
ペロニカ ‘サイトシーイング’ (ゴマノハグサ科)	一年目				● 播種	● 育苗	○ 定植							<ul style="list-style-type: none"> ・強健で病害虫の被害もほとんどみられない。 ・他県で栽培事例も多いが、県内平坦地での栽培では出蕾期が早すぎて草丈の確保が困難であること、草姿を整える手間がかかる等の問題が多い。 		
	二年目												■ 収穫			
モナルダ・ディディマ ‘レッドエクスブロージョン’ (シソ科)	一年目				● 播種	● 育苗	○ 定植							<ul style="list-style-type: none"> ・極めて強健だが、うどんこ病が発生しやすい。 ・切り花長は長くなるが、葉枚数、着蕾数ともに少なく、粗雑な草姿となる。 ・春先に伸びる枝にしか着花しないため、摘芯による開花調節が出来ない。 		
	二年目												■ 収穫			
アスクレピアス・インカルナータ (キョウチクトウ科)	一年目											● 播種	● 育苗	○ 定植	<ul style="list-style-type: none"> (2種共通) ・春播きも可。ただし、切り花のボリュームに欠ける、株張りが悪い個体は開花しないなどの問題が発生する。 ・切り口から乳液が出てかぶれることがあるのでよく洗い流すこと。 ・花蕾や花房に虫害が発生しやすいため、発蕾初期に粒剤等で予防する。 	
	二年目													■ 収穫		
宿根パンヤ (キョウチクトウ科)	一年目												● 播種	● 育苗	○ 定植	<ul style="list-style-type: none"> (2種共通) ・春播きも可。ただし、切り花のボリュームに欠ける、株張りが悪い個体は開花しないなどの問題が発生する。 ・切り口から乳液が出てかぶれることがあるのでよく洗い流すこと。 ・花蕾や花房に虫害が発生しやすいため、発蕾初期に粒剤等で予防する。
	二年目														■ 収穫	

3 利用上の留意点

(1) 栽培管理上の注意事項

- 1) 選抜した両種ともに高温多湿に弱いため、通風と排水対策を徹底する。
- 2) 9月中旬以降の播種では翌年に開花しないため、播種が遅くならないように注意する。

(2) 普及に当たっての留意点

県下全域で栽培可能であるが、特に夏期冷涼な中山間地での栽培を推奨する。

4 試験担当者

花き研究室 研究員 加藤 正浩
室長 岸本 真幸